
草原の木

N澤巧 T 郎

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

草原の木

【Nコード】

N7289D

【作者名】

N澤巧T郎

【あらすじ】

一人の少年が、草原の中にたたずむ一本の木に出会った。

地平線の向こうまで続く緑の草原
ひっそりと寂しげな木を見つけた。

「もしもし、ちょっといいですか？」

「すー、すー」

どうやら眠っているみたいです。

グーッ

「そういえばお昼だ。ご飯にしよう」

木の横にちょこんと座って、ぶら下げたかばんから木の皮で包まれたお弁当を取り出した。

中には大きなおむすびが2個と、3枚の白いたくあんが入れられていた。

はぐはぐ

ゆっくりと動く白い雲と、さらさらと鳴る葉っぱを見ていた。

ぽりぽり

体の中から全身に浸透していくように、草原の匂いは駆け抜けた。
陽だまりが午後を告げていた。

「ん、ん~~~~っ」

いっぱい伸びをして目が覚めた。

「よく眠っていたね。実に気持ちよさそうに」

ぼ〜としたふくよかな感覚になりながら

「僕が来たときは、あなたが眠ってたんだよ」

と、教えてあげた。

「あっはっは。そうだったか、まったく気づかなかったよ。なにせ、ここは気持ちがいいもんでね」

やわらかい風が相変わらず僕のほっぺたを撫でていく。

「ひとりでつまらないんじゃないの？おもしろい？」

「あっはっは。君はおもしろい事を言うね。私が一人とは。あっはっはっは」

少しだけすっきりしてきた。

「ひとりじゃないの？こんなに広いところなのに？他に誰がいるの？」

「いいかい。確かに私は一人に見えるかもしれない。だけどね。見

えるものだけで判断してはいけないよ。それは世界を狭くすることだから。」

大空を1羽の鳥が飛んでいた。

「ふうん。そっか。……そっか」

立ち上がって木をぎゅっと抱きしめた。
ざらざらしていて少し痛かった。

「ひとりじゃない」

「そう。世界は支えあってできてるんだよ」

僕はなにか言おうとしたけど、今の気持ちを言葉にすることができなかった。

そんな僕を知ってか知らずか

「なんでも言葉にしようとなんてしないでいいんだ。自分の気持ち
が、一番相手に伝わる表現をすればいい」

と、草原にたたずむ木は言った。

さつきよりも強く、木の皮が皮膚にめりこみながらも抱きしめた。

「きみは今、どんな話し上手よりも、多くを語っているよ」

「僕は行くよ。とても大事なことを教えてくれてありがとう。走りたい気分になったよ」

ふいに今までにはない強い風が吹いた。

「ばいばい」

手を振って別れを告げる。

孤独な冒険者はどんどん走って小さくなった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7289d/>

草原の木

2011年1月23日14時32分発行